



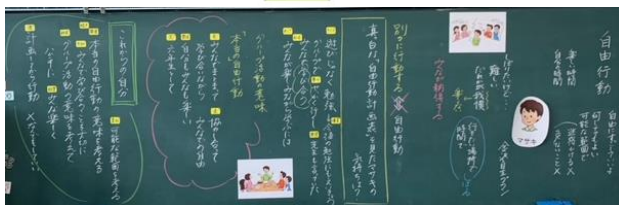
こころのはな



道徳の時間の様子

6年生 「自由行動」

『自由行動』は、主人公のマサキが社会科見学でのグループ行動の計画を立てる中で、それぞれが好きなように行動し、集合時間だけを決めておくという計画に対して、「本当にそれでよいのか」と思い悩む場面が印象深く、行き先について意見が割れてしまう中、揺れ動くマサキの気持ちを捉えることを通して、自由の難しさについて考えることができるお話です。



授業では、まず「自由行動」と聞いてイメージすることについて問いを投げかけました。子ども達からは、「自分のしたいように行動すること」「好きなことをして良いということ」などの意見が出されました。「自由行動」についての話し合いで意見が割れ、結局真っ白なままの自由行動計画表を見ながらマサキは何をを考えていたかについて考えたときには、「遊びではなく勉強で来ているのだから、このままではいけないのではないか」「みんなが楽しめる自由行動にできないかな」「好きに行動していたらグループ活動の意味がなくなってしまうと思う」など、マサキの気持ちに寄り添いながら、自分なりの考えをもつことができていました。

授業の終わりには、自分の経験と照らし合わせながら、「本当の自由」について道徳ノートにそれぞれの思いを書きました。今回の学習で感じたことを、これからの生活に生かして欲しいです。

学習の振り返りより

- 『自由行動』といっても、しっかりと目的を考えながら、みんなが楽しめるような計画を立てなくてはいけないと感じた。同じようなことになったときに生かしたい。
- みんなが協力して、よりよい『自由行動』となるように、自分も自分の思いをしっかりと伝えられるようにしていきたいと思った。
- 『自由行動』にも、いろいろな意味があることを学べた。これからのグループ活動は、みんな協力して、みんな学び合えるような活動にしていきたいと思うようになった。
- 『自由行動』では、一人の時とグループの時で、考えなければいけないことも変わってくることがわかった。これからは、活動の目的や意味について考えていきたいと思った。
- 「本当の自由」について考えることができた。「自由」＝「自分本位」ではないことを学び、これからの自分の行動につなげていきたいと思った。